北海道通信

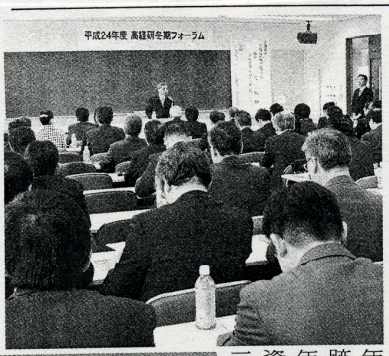
昭和50年6月12日第3種郵便物認可
日刊　祝祭日、日曜日、土曜日 休刊
日刊教育版

平成２５年
１月２１日（月曜日）第9928号
発行所　札幌市中央区北５条西６丁目
株式会社　北海道通信社

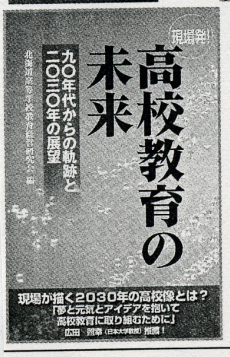
高経研が24年度冬期フォーラム

高校教育の方向性探る

出版本を資料に研究協議など



道高校教育経営研究会（＝高経研）は十二日、北海商科大学で二十四年度冬期フォーラムを開催した＝写真上＝。全道各地から会員など約九十人が参加。研究主題「北海道を元気にする高校教育」のもと、昨年十二月に出版した『現場発！高校教育の未来―九〇年代からの軌跡と二〇三〇年の展望』を資料に、二〇三〇年における高校像について、具体的な提言をもとに研究協議を展開した。あいさつした辻敏裕会長（札幌南高校長）は「これからの高校教育の目指すべき方向について、北海道から情報発信したい。本フォーラムがその第一歩と考えているので、積極的に意見をいただきたい」と呼びかけた。



開講式であいさつに立った辻会長は出版本の内容について、「ポスト3・11の教育を念頭におき、二〇三〇年の社会を見据えた教育の在り方を探ってきた本会の研究成果を取りまとめたもの。現在進められている教育改革について、北海道における実例をもとに総括し、二〇三〇年の高校像についてあらためて提言している」と説明。

また、高経研の活動について、「〝三歩先を見据えて一歩を踏み出す〟という身近な教育改革の実践者であり、ドナルド・ショーンの言う〝反省的実践家〟が本会の目指す姿であり、本会の精神でもある」と強調した上で、具体的に「二十一世紀の知識基盤社会を見据え、情報と知識の関連や、グローバルとローカルを融合した〝グローカル〟をキーワードとした新しい市民性教育の在り方について研究を続けてきた」と述べた。

最後に、フォーラムについて、「出版本に基づく具体的な提言をもとに、二〇三〇年の教育の在り方について研究協議を行っていきたい」と説明し、「これからの高校教育の目指すべき方向について、北海道から情報発信したい。その第一歩として、積極的に意見をいただきたい」と呼びかけた。

研究協議は三部構成で実施。「高校教育改革―九〇年代からの軌跡」をテーマとした第Ⅰ部では、「ポスト3・11の教育を展望する」を演題に辻会長が基調講演。また、学事出版㈱の二井豪氏が『高校教育の未来』発刊について」、月形高校の宮田日出夫校長が『高校教育の未来』を読んで」について報告。

第Ⅱ部「高校教育改革―二〇三〇年の高校の展望」では、北海商科大学教授で高経研の事務局長を務める堂徳将人氏が「二〇三〇年の高校～縦横の連携・統合が支える高校像」と題し基調発表。深川東高校の小形秀雄校長、登別青嶺高校の柴田健一教頭、浦河高校の山崎誠教頭が提言。

第Ⅲ部「高校教育改革―二〇三〇年の高校への期待」では、藤女子大学教授で高経研参与の太田眞氏がコーディネーターを務め、道教委の緒方公教育指導監、札幌北高校の黒田信彦校長、札幌南高校の辻校長が提言した。

なお、高経研が出版した『現場発！高校教育の未来―九〇年代からの軌跡と二〇三〇年の展望』（定価・本体一千八百円＋税）＝写真下＝の申込・問い合わせは、高経研事務局次長の浦河高校・山崎誠教頭（電話〇一四六―22―三〇四一　FAX22―二八一四）まで。